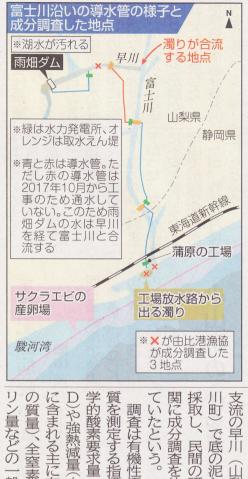
富士川流域

(1)

ン量などの



昭和16年11月29日第三種郵便物認可

漁場に近い駿河湾に注 比今宿)が行っていた、 な不漁を受けて由比港 く同区蒲原の工場放水 しの泥の成分調査につ サクラエビの記録的 (最大毎秒75~)な (静岡市清水区由 なかった」と明らかに 者会見し、 による汚染は確認され 原因とされる)有機物 は1日午前、 た。 調査項目を増やす 今後は県と協力 宮原淳一組合長 漁協で記 (赤潮の

する方針という。 などしながら継続調査 原組合長による 関連記事3面

9以)と富士川河口(同 支流の早川 7.2以 場放水路沖 昨年11~12月に工 (水深10 (山梨県早 富士川の

由比港漁協

の質量)、全窒素量、全 に含まれる主に有機物 関に成分調査を依頼し D)や強熱減量(土など 質を測定する指標の化 調査は有機性汚濁物 で底の泥などを 民間の研究機 CO 海底の土質とは違うも 組合長は「もともとの 般的な河川に比べても きている」と指摘した。 のが上流域から流れて 潜水調査などの過程 底質検査。その結果、 質の粒子が海底に数十 低い値が出た。一方で、 ことが分かった。 漁協はすでに県水産 程度も堆積している 非常に細かい粘土 かった」 を出しているのを確認 から導水管に濁った水 せつをしながら放水路 している。 いるか特定には至らな がどこから流れてきて 回は駿河湾に注ぐ濁り いう。宮原組合長は「 していく」とした。 サクラエビ異変」取材班 雨畑ダムはしゅ 了解を得て と述べた。 今後も注目 (早川上流 そ

町



調査地点の堆積物を示しながら調査結果を発表する 由比港漁協の宮原淳一組合長(左)と望月武専務 = 1 日午前10時半ごろ、静岡市清水区の同漁協